

委託事業実施内容報告書
2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：公益財団法人千葉市国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	対話型日本語教育の促進事業「ちば多文化協働プロジェクト」
事業の目的	多様な言語・文化を背景に持つ市民の地域参加と相互理解をめざした対話型日本語教育の質の向上と機会拡充
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	千葉市内には千葉市国際交流協会（以下、協会）の事業のほか、23か所の日本語教室が存在する。従来の日本語ボランティアの高齢化もあって日本語教育を担う人材は不足しており、増加する外国人市民への日本語教育の機会拡充が課題となっている。また、外国人が日常生活を営むための日本語能力等をコミュニケーションをとって身につけるという目的に合う学習活動が十分に普及しておらず、質の向上も求められる。 協会では、H26年度から30年度にかけて地域日本語教育実践プログラム(B)として、対話を核とする日本語教育の整備をおこなった。内容重視・学習者主体の日本語教育、および、日本語教育実施に必要な学習支援者育成研修等の取組を実施し、地域日本語教育ならではの市民参加を活かした取組は受講者にも事業運営委員にも評価されてきた。しかし、学習支援者が過度の負担なく日本語教育活動に参加するための教材の整備や、地域の多様な学習者に対応できる日本語指導者（日本語教師）の育成、委託事業成果の市内各日本語教室への普及は今後の課題となっている。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	1. 日本語教育：生活密着のテーマを取り上げ、対話と自己表現を重視する日本語教育を行うことにより、地域参加と人間関係構築に資する日本語コミュニケーション力向上を図った。また、日本語教育がOJTによる指導者・支援者の育成の場となるよう、「生活者としての外国人」を対象とする日本語教師や学習支援者との協働で日本語クラスを実施した。 2. 人材養成研修：対話型学習活動を担う人材の養成・研修を行うことにより、日本語教育の質向上と新たな日本語教育人材の確保を図った。 3. 教材作成：生活上の身近なテーマで対話をしながら理解と産出の能力の向上が図れる教材を作成した。
事業の実施期間	2019年5月～2020年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	上野 才智子	みどり土曜日本語学級
2	徳永 あかね	神田外語大学
3	藤井 美香	公益財団法人横浜市国際交流協会
4	東端 真吾	千葉市総務局市長公室国際交流課
5	萬浪 絵理	公益財団法人千葉市国際交流協会
6	鈴木 恵美子	公益財団法人千葉市国際交流協会



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和元年6月12 (水) 15:00～17:30	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	上野 才智子 徳永 あかね 藤井 美香 東端 真吾 萬浪 絵理 鈴木 恵美子	1. 事業概要（事業計画・事業内容・事業運営方針）の検討
2	令和元年10月23 (水) 15:00～17:30	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	上野 才智子 徳永 あかね 藤井 美香 東端 真吾 萬浪 絵理 鈴木 恵美子	1. 実施済み事業内容報告・質疑応答 2. 今後の事業内容検討
3	令和2年2月5(水) 15:00～17:30	2時間30分	千葉市国際交流プラザ	上野 才智子 徳永 あかね 藤井 美香 東端 真吾 萬浪 絵理 鈴木 恵美子	1. 事業内容報告・質疑応答 2. 事業評価

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	千葉市関係各課、日本語教室、出入国在留管理局、ハローワーク等と連携して、日本語クラスや支援者研修を実施した。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	日本語教育コーディネーターの萬浪は取組を企画、コーディネートした。日本語クラスに関しては、中核メンバーである指導者とともに準備にあたることで人材育成を図った。 協会職員の鈴木はシステムコーディネーターとして当協会内部のリソースを生かし、取組の実現を支えた。 外部機関への新規の働きかけを要する場合は協会の常務理事兼事務局長や事務局長補佐が担い、地域連携の強化にあたった。 また、当協会内部では委託事業以外の取組と連動させながら、長期的な視野に立った効率的な事業実施をおこなった。 また、他機関と連携・協働するほか、随時、運営委員から助言や評価を受け、それを反映させつつ、適切な事業実施をした。
----------	--

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：自己表現と対話による相互理解をめざす日本語教育】										
目的・目標	自己表現と対話をとおした日本語コミュニケーション能力および学習意欲の向上									
内容の詳細	1. 「テーマでつながる日本語クラス」(子育て、日本でやりたいこと) ①テーマに関する調べ学習や専門家によるやさしい日本語講義 ②自己表現スピーチ及びグループ活動 ③作文やポスターの形で内容をまとめたり発信したりする表現活動 2. 読み書きクラス ひらがな、カタカナ、漢字の導入と練習、絵本やポスターづくりなどの自己表現をとおした読み書きの学習 3. 初級クラス 入門レベル修了者を対象に基礎日本語を学ぶクラス。自律学習、協働学習、学習方略共有を重視したクラス。 第2期では作成したオリジナル教材を使用してクラスを行った。									
実施期間	令和元年5月22日～令和2年3月23日				授業時間・コマ数		1:1回3時間×3回×2期 2:1回2時間×10回×2期 3:1回2時間×10回×2期			
対象者	地域内外で日本語学習を希望する外国人(取組1, 2, 3)、日本語学習支援者(取組1, 2, 3)、市民(取組1)、協働メンバー(取組1, 2, 3)				参加者		総数 92人 (受講者51人、指導者・支援者等 41人)			
カリキュラム案活用	日本語教育に関わる者が②でカリキュラム案の活用方法について知識を共有し、①を使って学習活動で取り上げるテーマを選定した。③を学習活動組み立ての参考にした。④を活用して日本語クラス参加者の目標設定と自己評価に導いた。指導者のふりかえりのために⑤を使用した。									
使用した教材・リソース	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案、自主作成教材 学習院「日本に住もう」、関西JF多読教材、「漢字大丈夫!」(とやまやポニカ)、NEJテーマで学ぶ基礎日本語									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
	14	5	0	3	1	3	0	0	9	41
	アルゼンチン(1人)、イラン(4人)、ウガンダ(2人)、オーストラリア(2人)、キューバ(1人)、スペイン(1人)、スリランカ(2人)、マレーシア(1人)、ミャンマー(1人)、モンゴル(1人)									
日本語教育の実施内容										
1. テーマでつながる日本語クラス										
回数	開講日時	時間数	場所	参加者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和元年6月21日(金) 9:30～12:30	3	千葉市国際 交流プラザ	2 2	第1期(子育て)—①	子育てに関する講話と内容の共有。 子育てに関する話し合い、スピーチ の準備。		萬浪絵理、 小田亙代		
2	令和元年6月28日(金) 9:30～12:30	3	千葉市国際 交流プラザ	7 14	第1期(子育て)—②	学習者のスピーチと質疑応答、小グ ループに分かれて交流、対話、タス ク活動。		萬浪絵理	山下桂子(保育)	
3	令和元年7月5日(金) 9:30～12:30	3	千葉市国際 交流プラザ	3 2	第1期(子育て)—③	ふりかえり、子育て情報のポスター づくり、発表。		萬浪絵理		
4	令和元年10月29日 (火) 9:30～12:30	3	千葉市国際 交流プラザ	3 1	第2期(日本でや りたいこと)—①	日本でやりたいことに関する話し合 い、スピーチの準備。		藤平真由美	萬浪絵理	
5	令和元年11月5日(火) 9:30～12:30	3	千葉市国際 交流プラザ	4 5	第2期(日本でや りたいこと)—②	学習者のスピーチと質疑応答、小グ ループに分かれて交流、対話、タス ク活動。		萬浪絵理	藤平真由美	
6	令和元年11月12日 (火) 9:30～12:30	3	千葉市国際 交流プラザ	2 1	第2期(日本でや りたいこと)—③	ふりかえり、発表		藤平真由美		

2. 初級クラス								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年5月23日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	13 2	第1期-① U.3 好きなもの、好 きなことを言う	『NEJ』を使った学習方法の説明／U.3 マスターテキストの理解／音源を使用 した発話練習／自己表現／作文導入	山澤ゆり	
2	令和元年5月30日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	10 1	第1期-② U.4 毎日の生活につ いて話す	前回テーマの作文の共有／U.4マス ターテキストの理解／音源を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	田中久美	
3	令和元年6月6日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	8 2	第1期-③ U.5 金曜日の夜の過 ごし方について話す	前回テーマの作文の共有／U.5マス ターテキストの理解／音源を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	山澤ゆり	
4	令和元年6月13日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	7 2	第1期-④ U.6 友人や家族など とのお出かけにつ いて話す	前回テーマの作文の共有／U.6マス ターテキストの理解／音源を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	田中久美	
5	令和元年6月20日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	7 2	第1期-⑤ U.7 すずめる、誘 う、申し出る	前回テーマの作文の共有／U.7マス ターテキストの理解／音源を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	山澤ゆり	
6	令和元年6月27日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	7 2	第1期-⑥ U.8 家族について話 す	前回テーマの作文の共有／U.8マス ターテキストの理解／音源を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	田中久美	
7	令和元年7月4日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 2	第1期-⑦ U.9 希望や望みを言 う、何かをしたこと があるかを言う	前回テーマの作文の共有／U.9マス ターテキストの理解／音源を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	山澤ゆり	
8	令和元年7月11日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	6 2	第1期-⑧ U.10 支持や注意を 与える、頼む	前回テーマの作文の共有／U.10マス ターテキストの理解／音源を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	田中久美	
9	令和元年7月18日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 2	第1期-⑨ U.11 義務や仕事を 言う、してはいけな いことを言う	前回テーマの作文の共有／U.11マス ターテキストの理解／音源を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	山澤ゆり	
10	令和元年7月25日 (木) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 2	第1期-⑩ U.12 望ましい行為 を言う	前回テーマの作文の共有／U.12マス ターテキストの理解／音源を使用した発話練習 ／注意する表現を使ったポスターづくり・共有	田中久美	
11	令和2年1月15日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	12 2	第2期-① U.6 友人や家族など とのお出かけにつ いて話す	『NEJ』を使った学習方法の説明／U.6 マスターテキストの理解／音源を使用 した発話練習／自己表現／作文導入	山澤ゆり	
12	令和2年1月22日 (水) 10:00～12:01	2	千葉市国際 交流プラザ	12 2	第2期-② U.7 すずめる、誘 う、申し出る	前回テーマの作文の共有／U.7マス ターテキストの理解／動画を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	山澤ゆり	
13	令和2年1月29日 (水) 10:00～12:02	2	千葉市国際 交流プラザ	13 3	第2期-③ U.8 仕事について話 す	前回テーマの作文の共有／U.8マス ターテキストの理解／動画を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	萬浪絵理	
14	令和2年2月5日 (水) 10:00～12:03	2	千葉市国際 交流プラザ	13 2	第2期-④ U.9 希望や望みを言 う、何かをしたこと があるかを言う	前回テーマの作文の共有／U.9マス ターテキストの理解／動画を使用し た発話練習／自己表現／作文導入	萬浪絵理	
15	令和2年2月12日 (水) 10:00～12:04	2	千葉市国際 交流プラザ	8 2	第2期-④ U.9 希望や望みを言 う、何かをしたこと があるかを言う	前回テーマの作文の共有／U.9マス ターテキストの理解／動画を使用し た発話練習／自己表現	山澤ゆり	
16	令和2年2月19日 (水) 10:00～12:05	2	千葉市国際 交流プラザ	8 2	第2期-⑥ U.10 支持や注意を 与える、頼む	U.10マスターテキストの理解／動画 を使用した発話練習／自己表現／作 文導入	山澤ゆり	
17	令和2年2月26日 (水) 10:00～12:06	2	千葉市国際 交流プラザ	5 2	第2期-⑧ U.10 支持や注意を 与える、頼む	前回テーマの作文の共有／U.10テク ストの理解／動画を使用した発話練 習／自己表現	山澤ゆり	
18	令和2年3月4日 (水) 10:00～12:07	2	千葉市国際 交流プラザ	4 2	第2期-⑨ U.11 義務や仕事を 言う、してはいけな いことを言う	U.11マスターテキストの理解／動画 を使用した発話練習／自己表現／ポ スターづくり導入	山澤ゆり	
19	令和2年3月11日 (水) 10:00～12:08	2	千葉市国際 交流プラザ	4 2	第2期-⑨ U.11 義務や仕事を 言う、してはいけな いことを言う	U.11マスターテキストの理解／動画を使用 した発話練習／注意する表現を使ったポ スターづくり・共有	山澤ゆり	
20	令和2年3月18(水) 10:00～12:09	2	千葉市国際 交流プラザ	4 2	第2期-⑩ U.12 望ましい行為 を言う	U.12マスターテキストの理解／動画 を使用した発話練習／自己表現	山澤ゆり	

3. 読み書きクラス								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年5月22日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き①	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
2	令和元年5月29日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き②	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
3	令和元年6月5日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き③	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
4	令和元年6月12日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き④	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
5	令和元年6月19日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き⑤	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
6	令和元年6月26日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き⑥	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
7	令和元年7月3日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き⑦	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	鈴木恵美子	
8	令和元年7月10日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き⑧	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
9	令和元年7月17日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き⑨	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
10	令和元年7月24日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第1期読み書き⑩	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	萬浪絵理	
11	令和元年11月19日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	3 2	第2期読み書き①	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	田中久美	
12	令和元年11月26日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 1	第2期読み書き②	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	田中久美	
13	令和元年12月3日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	2 1	第2期読み書き③	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	田中久美	
14	令和元年12月10日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	2 2	第2期読み書き④	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	田中久美	
15	令和元年12月17日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	3 2	第2期読み書き⑤	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	田中久美	
16	令和2年1月14日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	4 2	第2期読み書き⑥	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	田中久美	
17	令和2年1月21日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	2 1	第2期読み書き⑦	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	田中久美	
18	令和2年1月28日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	2 1	第2期読み書き⑧	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。多読用絵本の作成準備。	田中久美	
19	令和2年2月4日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	2 1	第2期読み書き⑨	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。多読用絵本の作成。	田中久美	
20	令和2年2月18日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際 交流プラザ	5 3	第2期読み書き⑩	『漢字だいじょうぶ!』やレアリア、日記を使ってかな漢字文の読み書きを練習。	田中久美	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例① 初級クラス

【第4回】令和2年2月5日(水)

取組3で作成している教材を使用し、動画も用いながら、生活者向けの内容で身近な話題についてやりとりができることを目標として活動した。前回のユニット8「わたしのしごと」というテーマで、自分について書いた作文を発表、他の人は発表を聞いてわかったことをメモしたり、質疑応答したりした。ユニット9の動画をみて、リピーティング・シャドーイング、内容についての質疑応答を行った。



○取組事例② 読み書きクラス

【第9回 令和2年2月4日】

日本語を話すことにはある程度慣れているが漢字の読み書きを学びたい、という学習者を対象に漢字学習の入り口をつくった。また、ひらがな、カタカナの文字を学びたいという学習者に、文字学習を行った。この日は、多読用絵本を作成した。準備してきたイラストを本に貼ったり、自分で考えた文を手書きしたりした。まだ文字が苦手な人は、イラストを支援者と一緒にインターネットで探して内容を考えながら、次回、実際に本に書き入れることにした。



(2) 目標の達成状況・成果

参加者に行ったアンケート調査結果から、『テーマでつながる日本語クラス』学習者、支援者、交流会参加ともに参加した満足度が高かった。学習者では学習者のクラスでの達成感「クラスはどうでしたか」は、第1期「子育て」ではすべての項目で比較的高いが、第2期「日本でやりたいこと」では、ほとんど話せない参加者がいたためか、達成感が低い項目もあった。

『読み書きクラス』クラスの回数・時間・受講料・進度においては、「ちょうどよい」という回答が多く、クラス設定はほぼ問題はないと考えられる。

クラスに参加したあとの変化として、ほぼ全員が「読むこと」「書くこと」に自信がついた、「読み書きの勉強の意欲があがった」と回答しており、クラスの成果が得られたといえる。また、「読み書きの勉強方法が分かった」、「ほかの人と協力しながら勉強する方法が分かった」でも達成感が高く、自律学習を促すという点においても成果が得られたといえる。

『初級クラス』クラスに参加したあとの変化として、「日本語を使うことに自信がついた」「日本語で話せることが増えた・これから増えそう」「日本語の基礎的な表現について知識が増えた」に60%が5を回答している。また、「いろいろな人と交流しながら勉強する方法がわかった」、「新しい学習方法や道具を知った」、でも達成感が高く、自律学習促進の成果が得られたといえる。

テーマでつながるクラスでは、外国人参加者から「たくさんのあたらしいことを勉強しました」「いろいろな子育てについて情報をしました」「コミュニケーションが好きですら、いいクラスです」などのコメントがあった。テーマをめぐってさまざまな言語活動を組み合わせることで、内容についても日本語についても学ぶことができたと考えられる。

参加した市民や交流員から「日本に來られて不安も大きい中、子育てを頑張っている方々のスピーチは感動しました。とても応援したい気持ちになりました。このような機会が発信をしたり、息抜きをしながら頑張ってもらいたいです。」「スピーカーはみんな日本語学習の必要性を意識して勉強に頑張っていることがわかりました。」「とても面白かった」といった声があり、「日本人の多文化理解が進み、また、日本語弱者の苦労や不安への共感が日本人の意識にそういった変化を起こすことが受容感や自己効力感につながる。」という、取組の目標を達することができた。

また、「国や年齢に関係なく、話すこと、伝えること、聞くことの大切さ、楽しさを改めて感じました」「いろいろな方法で日本語の勉強ができることに気がつけました。」「日本語のレベル差のある方が共同テーマで意見を出し合い、自然に日本語を習得することが今回のプログラムの主眼なのではないかと思うほど、有効性が高いと感じた。」というコメントもあり、本取組の目指す方向性が参加した市民(交流員含む)へも理解されたことは大変意義があった。

(3) 今後の改善点について

これまでは、日本語クラスは初級以上の人を対象としていたので、今後はよりビギナーの人を対象に広げ、初期の段階から自己表現能力を伸ばせるようなクラスを展開していきたい。また、新型コロナウイルスの影響は今後も続くと思われるので、通学クラスが不可能な場合の代替クラス(例えばオンラインクラス)なども積極的に検討して実施していきたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:相互理解を図りながら日本語学習の支援ができる人材の養成・研修】										
目的・目標	自己表現と対話を中心とする日本語教育において参加者と相互理解を図りながら日本語学習を支援できる「日本語学習支援者」および「生活者としての外国人を対象とする日本語教師」の育成									
内容の詳細	1.「日本語交流員新基本講座(基礎編+実践編)」—『日本語教育人材の養成・研修の在り方(報告)』に示された「学習支援者に望まれる資質・能力」の一覧に基づき、対話型日本語学習に必須の知識・技能・態度の向上に資する学習項目で研修を構成した。研修の中で同報告の引用をしながら、日本語教師と日本語学習支援者の協働の在り方やそれぞれの役割、協会における日本語教育での役割分担について周知を図った。 2.「目的別人材研修」—目的別の日本語クラスを進行できる指導者やファシリテーターの育成を行った。上記報告書をふまえ、「日本語教師」のカテゴリーに入る人材への実践的な研修を実施した。生活者対象の日本語教育の特徴、日本語学習支援者との協働の方法、教材の使い方、ふりかえり重視の授業の進め方を盛り込んだ。取組1の日本語教育「読み書きクラス」でのOJTを行った。 3.「市内日本語教室支援者研修」—市内の日本語教室で活動している支援者に向けて、対話型日本語学習に必要な知識・技能・態度の向上に資する学習項目で研修を構成した。									
実施期間	令和元年6月11日～令和2年3月7日				授業時間・コマ数		1:1回2時間×3回×3期、1回2時間×2回×2期 2:1回2.5時間×10回×1期(各回2.5時間のうち2時間は取組1読み書きクラス内でのOJT) 3:3時間×1回			
対象者	1.日本語学習支援者(経験者、新規希望者) 2.日本語教師【初任】				参加者		総数 97人			
カリキュラム案活用	「生活者に対する日本語教育」の目標やカリキュラム案の活用方法について、学習支援者・日本語教師間で知識を共有できるよう、研修で②を活用した。①と③を使って学習活動で取り上げるテーマを選定したり、活動の流れを考えたりする演習を研修に取り入れた。④を活用して日本語クラス参加者の目標設定と自己評価に繋げられるよう、研修で取り上げた。⑤を活用して、日本語学習支援者、日本語教師それぞれが日本語教育実践ふりかえりができるようにした。									
使用した教材・リソース	自主作成教材、標準的カリキュラム案									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										97
養成・研修の実施内容										
1.日本語交流員新基本講座										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和元年6月11日(火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	24	基礎編第1期－① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について		萬浪絵理	—	
2	令和元年6月18日(火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	24	基礎編第1期－② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル		萬浪絵理	—	
3	令和元年6月25日(火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	19	基礎編第1期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」		鈴木恵美子	—	
4	令和元年7月2日(火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	17	実践編第1期－① 対話型の日本語活動のために	好きなもののシート、語彙マップを活用した活動の演習		萬浪絵理	—	
5	令和元年7月9日(火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	17	実践編第1期－② 対話型の日本語活動のために	対話活動における「質問のつくりかた」の演習		萬浪絵理	—	
6	令和元年10月11日(金)13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	9	基礎編第2期－① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について		萬浪絵理	—	
7	令和元年10月18日(金)13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	8	基礎編第2期－② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル		萬浪絵理	—	
8	令和元年10月25日(金)13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	19	基礎編第2期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」		鈴木恵美子	—	

9	令和元年11月1日(金) 13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	17	実践編第2期－① 対話型の日本語活動のために	すきなもののシート、語彙マップを活用した活動の演習	萬浪絵理	—
10	令和元年11月8日(金) 13:30～15:30	2	千葉市国際交流プラザ	17	実践編第2期－② 対話型の日本語活動のために	対話活動における「質問のつくりかた」の演習	萬浪絵理	—
11	令和2年2月8日(土)10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	9	基礎編第3期－① 日本語ボランティアとはなにか	地域の多文化化の現状と日本語交流員の役割について	萬浪絵理	—
12	令和2年2月15日(土)10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	8	基礎編第3期－② コミュニケーションスキル	相手に寄り添う方法、初級学習者の発話を促す傾聴型コミュニケーションスキル	萬浪絵理	—
13	令和2年2月22日(土)10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	19	基礎編第3期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容、「やさしい日本語」	萬浪絵理	—

2. 目的別人材研修

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年5月22日(水) 10:00～12:30	2	千葉市国際交流プラザ	3	第1期読み書き①	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	萬浪絵理	
2	令和元年5月29日(水) 10:00～12:30	2	千葉市国際交流プラザ	2	第1期読み書き②	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	萬浪絵理	
3	令和元年6月5日(水) 10:00～12:30	2	千葉市国際交流プラザ	3	第1期読み書き③	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	萬浪絵理	
4	令和元年6月12日(水) 10:00～12:30	2	千葉市国際交流プラザ	2	第1期読み書き④	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	萬浪絵理	
5	令和元年6月19日(水) 10:00～12:30	2	千葉市国際交流プラザ	3	第1期読み書き⑤	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	萬浪絵理	
6	令和元年6月26日(水) 10:00～12:30	2	千葉市国際交流プラザ	3	第1期読み書き⑥	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	萬浪絵理	
7	令和元年7月3日(水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3	第1期読み書き⑦	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	鈴木恵美子	
8	令和元年7月10日(水) 10:00～13:00	2	千葉市国際交流プラザ	3	第1期読み書き⑧	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	萬浪絵理	
9	令和元年7月17日(水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3	第1期読み書き⑨	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	萬浪絵理	
10	令和元年7月24日(水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流プラザ	3	第1期読み書き⑩	読み書きクラス支援に必要なポイント(OJTを含む)	萬浪絵理	

3. 市内日本語教室支援者研修

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和元年6月7日(金) 9:30～12:30	3	ベイタウンコア	15	日本語学習と相互理解の両立をめざす教室活動	コミュニケーションスキル、学習者主体、対話中心の活動紹介	萬浪絵理	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 令和元年6月25日】

やさしい日本語について、やさしい日本語の概要を学び、実際の「おたより」(小学校、保育園)を使って、やさしい日本語に直す活動を行った。参加者からは「日頃何気なく使っている日本語とわかりやすく伝えることの難しさを感じます。本当に難しい!」「できるだけ砕いて簡単な表現にするのが難しかった。不必要な情報は削り、理解しやすく端的にまとめることが大切であると思いました。」という感想が多かった。



○取組事例② 目的別研修(読み書きクラス)

【第7回 令和元年7月10日】

「かんむり+あし」「たて」の漢字についてカードを使ったりして、学習する方法を学んだ。また、多読用絵本を作る活動について学んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

定量アンケート結果では、

- ・85%の人が「とてもよかった」「よかった」という回答で、満足度は高い。
- ・受講前との比較では、講座によって「大体予想通り」、「少し違った」の割合は異なるが、「期待どおり」、「期待以上」と比較満足度も高くなっている。
- ・1回あたりの時間、講座回数は「ちょうどよい」と答えた人が多かった。
- ・よかったことは、「学習支援活動の意義を捉え直した」、「多様な意見に触れられた」、「普段考えないことを考える機会になった」、「活動に役立つ情報が得られた」と回答している人が多い。

「日本語交流員は日本語教師の勉強をしていなければいけないのかと思っていましたが、『共に生きるためのコミュニケーション』を目指すということで、交流員の役割、立場が見えてきました。『わかりやすい日本語』を意識して使うようにしていきたいです。」「相手の意図を的確にくみ取り、わかりやすい日本語で、対等な人間関係を築く。目指すものは相互理解。(自分が今までは気付かず、本日目からウロコ、、、であったことです。)」などのコメントから、新規の活動希望者と従来からの経験者の双方に、対等な関係づくりをめざした対話活動の重要性が理解されたと言える。

「ワークの多い授業で、いろいろな人の意見や考え方に触れることが出来良かったです。」「もっと受け身の授業を想像していましたが、グループワークも多く、飽きることのない内容で楽しかったです。」「色々な年齢の方とグループワークしながら学びを進めていくのが学びとなりました」というコメントから、参加型の共同学習によって講座の効果が高まったといえる。

「教えることを仕事にしましたが、ずっと一方的にしゃべるだけで過ごしてきたので、今回の内容は毎回、目からウロコ。新たな発見の日々でした。」「生活に密着した話題で対話をする-おしゃべりで終わらせないこの二点の兼ね合いが大切、でも難しいと思いました。」「『聞く』『待つ』を心掛ける姿勢を学んだ。対話がスラスラ進むことでなく、相手に考えて喋ってもらうことが支援だということを中心掛けたいと思った。」などのコメントから、指導者主導型ではなく、生活密着の寄り添い型、対話型の活動の重要性が理解されたと言える。

目的別支援者研修では、OJTを取り入れ、具体的に支援方法について研修をすることができ、次の日本語クラスの支援に活かすことができた。

また、地域の日本語教室と連携して、いくつかの日本語教室支援者向けに研修を実施し、学習者に寄り添った活動への共感を得ることができた。

(3) 今後の改善点について

今年度は、地域の日本語教室と連携して研修を行うことができて大変有意義であったことを踏まえ、オリジナル教材を使って自己表現の能力を伸ばせるような支援の方法を、協会日本語交流員や地域の支援者向けへも研修に取り込んでいきたい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：「わたしを伝える日本語」教材】			
目的・目標	相互理解を図りながら自己表現のための日本語を学べる教材の開発		
内容の詳細	日本があまり話せない学習者に対して、身近な話題で基礎文型を用いてまとめた内容の理解と産出、やりとりができるようにする。 生活者（子育て中の主婦、会社員男性、英会話講師、レストラン経営者（以上は外国人）、協会日本人職員の5つの生活者キャラクターを設定し、基礎文型を含むマスターテキスト、音声、アニメーションを作成した。		
実施期間	令和元年5月10日～令和2年3月19日	作成教材の 想定授業時間	1回6時間 × 12ユニット = 72時間
対象者	対話型日本語活動に参加する日本語学習者、学習支援者、指導者	教材の頁数	紙教材 本冊105ページ、翻訳版20ページ 動画教材 1本5～10分×12本
カリキュラム案活用	「生活者としての外国人」に役立つ日本語教材について、①カリキュラム案について②ガイドブックを用いて教材作成者間で情報共有した。③教材例集を参考にして教材に盛り込む内容を検討した。各ユニットのテーマをカリキュラム案の「生活上の行為」から選んで選定。		
事業終了後の教材活用	協会日本語教育のほか、希望があれば地域日本語教室、企業内学習支援の現場で活用してもらう		
成果物のリンク先	http://www.ccia-chiba.or.jp/ https://www.youtube.com/playlist?list=PLdvMCZD_p_eYwa9sHBFxcoXix2cAv_ehl		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

多様な言語・文化を背景に持つ市民の地域参加と相互理解をめざした対話型日本語教育の質の向上と機会拡充

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

各自事業でのアンケート結果のとりまとめとともに、事業担当者・コーディネーターによる成果と課題の報告をもとに、運営委員によって事業評価を行った。成果について委員からは下記のような評価があった。

- ・日本語支援者が学ぶ人の声を聞き、学ぶ人を尊重する事を重んじる研修を実施するプログラムになっており、双方のやる気を引き出し、共に楽しく学べる研修会だと思う。
- ・教材作成については大変な時間と労力をかけられていて、生活に密着した内容になっていてカリキュラムが組まれており、多くの学習者が使い易い教材になっていると思う。
- ・定期的な運営委員会が開かれ、事業進捗状況の詳細報告および事業に関する意見交換が行われ、事業運営の透明性が確保されていた。また、本事業のコーディネーター、事業担当者およびボランティアなど事業を支えるメンバー間のコミュニケーションがよくとられていた。このことは、複数のメンバーで限られた期間に既存のリソースを活用した教材を作成した取組3の成果にも反映されていると考える。
- ・各取組の参加者から集めたアンケート調査結果は、取組1の日本語教育において参加者の自律学習を促したこと、取組2の支援者研修において「対話中心の活動」を行う意義や方法が新たな視点として参加者に提供されたことを示している。ここから、事業の目標である「多様な言語・文化を背景に持つ市民の地域参加と相互理解をめざした対話型日本語教育の質の向上と機会拡充」について達成できたと考える。
- ・事業目的(市民の地域参加と相互理解)が明確で、それに沿った各事業の内容となっていた。国際交流協会が実施することで、この事業目的が、市民への多文化共生に対する姿勢を伝えることにつながっていると思う。
- ・日本語教育専門家の関わりにより、地域日本語教室の学習支援者との役割の違いが明確だと思った。
- ・教材作成については、作成委員や運営委員の知見や経験、意見を活かすとともに様々な工夫が施されており、作成の目的・目標達成が大いに期待できる。
- ・言語としての日本語を段階的に学べる、生活者に適したテーマ設定、自己表現中心の活動、という3つの目的を叶えるための教材が形になった。クラスでの試行では教材やそれを使った学習活動に対する参加者の評価が高く、今後の発展が楽しみである。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

作成した教材ではカリキュラム案の分類を参考に内容や項目を考えた。協会での1対1の日本語活動でも、交流員・参加外国人に、学習の内容を決める参考として、生活上の行為の事例を多言語で用意、カリキュラム案教材例集も案内している。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・地域の日本語教室と連携し、教室支援者向けの研修を行い、活動の支援を行うとともに対話型活動について周知することができた。
- ・保育関係者や地域の子育て団体とつながりを持つことにより、保育付きの日本語クラスの試行や、日本人市民へ事業周知も行うことができた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・支援者研修では公民館やことぶき大学などへちらしを配布し、広く広報した。
- ・当協会ホームページ・フェイスブック、プロジェクトフェイスブックページで、日本語クラスや支援者研修のちらしを掲載し、広く周知した。
- ・区役所、保健センター、出入国管理局出張所、ハローワークでも日本語クラスをちらしを掲示してもらい、より多くの外国人へ参加募集を行った。
- ・プロジェクトのフェイスブックページを利用して、該当事業に参加した人の振りかえりにもなるよう、事業の報告を行った。

(6) 改善点、今後の課題について

運営委員からは下記のように改善点や課題が指摘された。

- ・この事業を通じて、今後の地域日本語教室とのよりよい連携や、よい波及効果が進むことに期待する。
- ・今後も現在の運営体制で継続して事業を行うことにより、千葉市における「多様な言語・文化を背景に持つ市民の地域参加と相互理解」が一層進むことを期待したい。
- ・参加者の満足度は高いが、潜在的学習希望者がもっと多いと思う。今後は教室開催情報を必要な人に届けるための効果的な広報を模索できるといいと感じた。
- ・「日本語教育」と「支援者研修」の参加者からは概ね高評価を得ているが、気になるのが「テーマでつながる日本語クラス」の外国人参加者数がやや少ない点である。外国人住民のニーズをしっかりと捉えてテーマ選定することや開講日時等の設定や開催周知方法に課題などがないかを随時検討の必要がある。
- ・新教材の使用法を地域の日本語教室に紹介することで、対話型の日本語学習支援が広がるよう、取組を進める必要がある。
- ・地域の教室は支援者が不足するほど学習希望者が多いとのことだが、協会の日本語クラスは1対1の交流に比較して参加者が少ない。交流員に日本語指導の役割を負わせないためにも、日本語クラスで担う部分を明確にし、引き続き、媒体を探す必要がある。

(7) その他参考資料